

四季の掛り

皆一様におならびあれー

(先唱)
(斉唱)

四季のかゝりを踊よ

四季のかゝりを見せ参らしよ

たいようえんの梅の花

ひはこがらの鶯の

のきばの梅に羽を休め

芸ならば芸とは

泣んで雉子の鳥

何ぞや後のほろゝ声

四季のかゝりを踊よ

四季のかゝりをいざ踊よ

(傘立つ
↓踊る)

すはまに池を堀らせつゝ

池のその中に

蓬来方丈えんじゆとて

三つの島をつかせつゝ

島より陸地へ

橋を掛けたいそり橋を

橋のその下に

浦島太郎の釣の船

とうなながじょなん

うつの舟

五色の糸につながせて

常楽我浄の風吹かば

みぎわえよれとの綱いざれ

みぎわえよれとの綱いざれ

(くつわ
左右交代)
(豆拾い廻る)

(くつわ
立つ↓踊る)

シャンシヤコくくくシヤン

サツサツサツサツ

シャンシヤコくくくシヤン

どっこいせシヤンシヤコシヤン

ハリワイセーシヤカシヤンのオッシヤカシヤン

シヤンシヤカシヤンのシヤンシヤンく

(以下急調子)

西は秋かと打見えて

四方の稍も色づいて

白菊たいのふせいかな

白菊たいのふせいかな

ソラサツサツサツサツ (以下同じ)

北は冬かと打見えて

三ヶ国は我が国よ

三ヶ国は我が国よ

ソラサツサツサツサツ (以下同じ)

冬えもなれば炭を焼く

炭山で立つけむり

青て細て立ちのぼる

青て細て立ちのぼる

ソラサツサツサツサツ (以下同じ)

おのが衣は薄けれど

冬を待つこそやさしけれ

冬を待つこそやさしけれ

ソラサツサツサツサツ (以下同じ)

末ははるく長けれど

末ははるく長けれど

四季の掛りはこれまでよ

四季の掛りはこれまでよ

ソラサツサツサツサツ (以下同じ)

ソラサツサツサツサツ (以下同じ)

津島市文化財

くつわ踊り

津島市教育委員会
くつわ踊保存会

